

1月例会のお知らせ

☆1月例会は第3木曜19日18時20分「ホテルアウィーナ大阪」にて行います。新春初顔合わせ、多くの方のご出席をお待ちします。作品持参の方もよろしく。

★本年もどうぞよろしく

明けましておめでとうございます。昨年はビデオも併用という、新たな出発で再スタートしたOMCでしたが、時代の流れとは言え今年にはビデオの比率が益々高くなっていくのではないかと予感されます。しかし8ミリの伝統だけは消さないのがOMCのモットーですので、8ミリで楽しんでおられる方はどうかマイペースで制作を続けて行ってほしいと思います。8ミリでもビデオでも創る楽しみと、それを仲間等に観て貰う楽しみ、そして同好の士とおしゃべりし、交流する喜びがあります。今年も仲良く、楽しくやってみましょう。本年もどうぞよろしく願います。

★12月例会レポート

師走例会ともなると皆さん仕事で忙しいのか、忘年会で時間がとれないのか、或いは寒さで億劫になるのか、とかく毎年出席が少ないがようやく10名の“大台”で開会。有村氏のご欠席の為、小倉会長が司会を担当された。会計報告の後、新入会の杉本憲一さんが紹介され拍手で迎えられた。今月の出席者；小倉、江村、岩井、上総、合原、関、越本、増田、森、杉本の各氏（以上10名）。

I. フィルム作品の部

「港」江村さん、SiM5分。やはりビデオは物足りない、シングル8復活宣言。フィルム派にとっては力強い存在だ。フジの課題作品らしいが8ミリは江村氏1人？いろんな港があるので印象が散漫になった。一つか二つに絞った方がよかったのではないか。

II. ビデオ作品の部

「出会い・マレーシア」越本さん、13分。開会前のテストで、映像が乱れるのでまた故障かと心配されたが、テープカセットに原因があることが判った。誤録音防止用のツメのところにセロテープを張りつけたが「S」を見分ける孔をふさいでいたらしい。とんだ勉強となった。さて、作品は観光の楽しい雰囲気は伝わってくるが、最後の締めりが欲しいところ。子どもの表情がよかった。「箕面銀座に猿も出る」合原さん、9分40秒。箕面のワル猿をユーモア的に描いた作品。もみじ季節の人の多さはまさに“箕面銀座”だ。

「熊野讃歌」杉本さん、14分30秒。熊野市が募集した観光ビデオ応募作品。撮影会もあったとかで太鼓や踊りの場面が賑やかに登場する。しかし、踊りを作品の中に取り込むと、どうしても浮いてしまうとの意見も。もっとも作品の目的が観光ビデオの応募だけに、それとは別に自由に創り直せば、もっと映像的にまとまったかも知れない。もっともさすが杉本作品だけに見事な出来であった。

☆新入会者 杉本憲一氏、〒630 奈良市芝辻町3-3-8、☎0742-33-1596

☆合同新年会22日（日）の方もお忘れなく。

2月例会のお知らせ

☆2月例会は第3木曜16日18時20分「ホテルアウィーナ大阪」にて行います。寒い時期ですが月1回の楽しい例会です。寒さにめげずどうか例会場へお越し下さい。作品の方もどうぞよろしく。

★阪神大震災に唯ただびっくり

1月17日未明の突然の大地震で室内の棚の上のモノが皆落ちる等の大揺れにびっくり、このとき神戸地区に大きな被害があることなど予想も出来なかったが、大変な事態になったものだ。OMC会員の中でも後日聞いたところによるとテレコやテレビが落ちて壊れたとか、家の壁が剥がれたとか、ひび割れが発生したとか大なり小なりの被害がもたらされたが、家の崩壊や大怪我されたとかの情報は今のところ無し。不幸中の幸いと言うべきか。神戸地区の映像仲間の再起を祈るのみ。

★1月例会レポート

例会日(19日)は大地震の翌々日とあって例会が心配されたが、大阪市内の交通機関もほぼ正常に戻ったので予定通り開会。予想されたとはいえ、やはり出席者は少なく、最少の8名にとどまった。開会前のロビーのひとつ、お互いの被害の情報交換で話題はもっぱら地震の話。お互い無事で良かった…。

作品もフィルム2本、ビデオ2本という淋しさであった。しかし、1本1本時間をかけて作品に対しての意見や助言が出されたりして大いに勉強になった。

今月の出席者；有村、小倉、金子、桐田、合原、花岡、前田、森の各氏(以上8名)。

上映作品； I. フィルム作品の部

①「長崎くんち」金子博泰氏、SuM 10分。今までのマグネの音に比べて良くなっている筈だが、どれだけ良くなったか聴いて欲しい、と作者。どうやらよい機器(ヤマハ製プロセッサ)を入れられたらしい。しかし普通のマグネとの比較がないと判定は難しい。テープ同調なら違いが出たかも…。画面の方は祭りの雰囲気が出ていてよかった。

②「わが撮影会あと始末記」合原一夫氏、Si M 14分。S53年フジ全国撮影会入賞作品。往年の作品だが編集をどうしようかと迷う作者を描く等、変わった視点でまとめた参考作。

II. ビデオ作品の部

①「箕面秋景色」森保信氏、6分。箕面の秋景色の安定した画面はさすが大型ビデオカメラの威力か、作者の腕の良さか…。とにかく安心して見ていられる。ただ何かポイントが欲しいところだ。

②「樹氷探訪」有村博氏、10分。冬の太台ヶ原は珍しく上天气に恵まれて、素晴らしい樹氷の世界が展開して見るものを楽しませてくれる。バスが雪で苦労して上がっていくカットも盛り上がりの伏線として良かった。H3年2月撮影作品。

作品が少なかったのでしばし雑談の後、いつもの二次会へ席を移し、楽しいひとときをすごしながら10時散会。

☆杉本憲一氏が、熊野観光ビデオコンテストに入賞(銅賞)。おめでとうございます。

3月例会のお知らせ

☆3月例会は第3木曜16日18時20分「ホテルアウィーナ大阪」にて行います。ようやく春が来たといった良い季節となりました。楽しい月1回の例会にぜひ、お出かけ下さい。作品の方もよろしく。

★OMCニュース、350号を突破

月1回の発行にすぎないニュース、1年間でも12回どまり、10年で120回、20年で240回、30年で360回、と数えていくと、350号の長さは大変なものである。それだけ、先輩諸氏の築いてきたOMCの歩みと伝統は、価値あるものに違いない。ここへ来てビデオ化という大きな変革はあったが、質の高い映像文化を築いてきたという自負だけは、今後も持ち続けていきたいものである。そして毎年1回の発表会で、OMCの存在を世にアピールしていくことも、一つの映像づくりのはげみにしていきたい。OMCニュース351号発行を前にした感慨である。

★2月例会レポート

阪神大震災後、およそ1カ月目の例会、さすがに前月は出席者が少なかったが、今月はまずまずの13名の顔ぶれがそろった。しかし作品の方が少なく、上映は早めに終わり、あとは雑談まじりのビデオ勉強会。気がついたら9時少し前、あわてて閉会宣言で二次会へ。ビデオの話になると、とたんに時間のことも忘れるこの熱心さ。例会はやっぱり楽しい。

今月の出席者；有村、岩井、江村、小倉、金子、上総、桐田、合原、関、花岡、増田、森、岡本の各氏。13名。

上映作品

I. 8ミリフィルム作品の部

「火の国ふくしま紀行」桐田豊繁氏、SuM 18分。「火の国」は「福島」のことかと、ひとしきり賑やかな話題に。裏ばんだい、野口英世記念館、若松城など盛りたくさんの秋の観光映画。今から14年前の作品。

「国東半島古寺と石仏」増田栄一氏、Su サイノ 12分。音が入っていないのでテープでBGMを流したが、結構雰囲気マッチしていた。BGMの効果をあらためて見直した次第。古寺や石仏を丹念に撮られているが、アップのピントが甘いのはカメラのせいとか作者の弁。昭和45年撮影とはいえ色調のおとろえが感じられない。フィルムの良さの証しか。

II. ビデオ作品の部

「33年目の追想」合原一夫氏、9分40秒。作者のビデオ処女作品で4年前に作られた作品。義兄の33回忌法要で生前のことを回想。しっかりと子どもらを育て上げてきた姉とをオーバーラップする。ドキュメンタリー作品。

「寧楽幻想」有村博氏、4分。色彩を反転し非現実的な色の表現で奈良を表現された一種の実験映像。版画的効果をねらったと作者。こういう作品は見る人によって評価が違い、難しいところだ。「ビバエスパーニア」関剛氏、3分15秒。スペインの祭り風景。30分車を停めて26カットだけ撮影、カット不足と作者の弁。気楽にまとめられ、気楽に拝見。

OMC, 関西シネクラブ合同撮影会について

OMC, 関西シネクラブ事務局

95年度OMC撮影会は、関西シネクラブと合同で実施することになりました。当初の予定（5月20日～21日）を1週間後に変更して、下記の要領で実施します。

参加ご希望の方は、出来るだけOMCは4月例会日、関西シネクラブは4月末迄に（遅くても5月10日迄に）例会場または事務局（小倉宛）か企画担当・関さん宛ご連絡ください。

なお、申し込み者には、現地の田原町商工観光課から提供された資料をお渡しいたしますが、数に限りがありますので、不参加の方へはお渡しできませんのでご了承ください。

記

実施日 5月27日（土）～28日（日） 1泊2日

雨天の場合は中止。（問い合わせは、小倉、関両氏宅へ）

場所 愛知県渥美郡田原町一帯（現地集合）

テーマ 田原凧まつり（27日）と 喧嘩凧（28日）

宿泊 田原シティホテル 渥美郡田原町大字神戸字後申 ☎ 05312-2-5288

参加費 1万3千円 宿泊費、夕食（ホテル1階「割烹・船ぐら」ビール大瓶1本つき）朝食費、ロケハン等諸経費を含む。

* 現地間の交通費、昼食費等は各自で都度清算してください。

現地への交通機関

▷新幹線利用 : 新大阪08:57 -(こだま406)- 10:54 豊橋

豊橋 11:15 -(豊橋鉄道)- 11:51 三河田原着

<こだま運賃と自由席特急料金 7,720円 豊鉄運賃 500円 計 8,220円 (片道)

▷近鉄特急利用 : なんば 08:00 -(ノンストップ)- 10:07 名古屋着

名古屋10:19 -(名鉄特急)- 11:08 豊橋着

豊橋 11:15 -(豊橋鉄道)- 11:51 三河田原着

<近鉄料金 3,540円 名鉄運賃 980円 豊鉄運賃 500円 計 5,020円 (片道)

注. 名鉄、豊鉄の発着時刻は季節によって変更されることがあり、事前の確認をお勧めします。

名鉄名古屋駅 ☎ 052-541-6318 豊鉄観光サービス ☎ 0532-54-5671

・近くに蔵王山展望台、フラワーパーク、花の村、伊良湖岬などの観光スポットもあります。時間があれば、足をのばすのもよいでしょう。

・田原シティホテルはすべてシングルを予約してありますが、相部屋希望またはご夫婦同伴で参加される方はツインに変更します。出来るだけ早めにお知らせください。

4月例会のお知らせ

☆ 4月例会は第3土曜16日18時20分「ホテルアウィーナ」にて行います。暖かくてよい気候です。寒さでおっくうだった方もぜひ月1回の楽しい例会へお出かけ下さい。なお、今月は後期会費納入月です。少々高くして申し訳ありませんが、OMC存続のためにご協力ください。そのためにも、より内容の充実した例会にしたものです。よろしくお祈りします。

★ 3月例会レポート

外は春雨模様だが、さすがに3月例会の頃ともなるとしのぎやすい気候だ。例会では会員諸氏の出足がよく、定刻には12名の顔ぶれが揃い話もはずんだ。作品の方も珍しくフィルムが4本も出たが、いずれもリバイバルとあって、これが新作だったら、と複雑な心境だ。久しぶりにテープ同調の作品が出て、テレコと映写機の結線に「忘れてしまうたなあ」と、担当者がとまどう一幕も。

上映作品

1. 8ミリフィルム作品の部

「山車祭り」金子博泰氏、SuM 11分50秒。富山の5月に行われる華やかな祭りの記録。作者が8ミリを始めた頃のS53年頃の作品とか。「風の盆」金子博泰氏、SuM9分。風の盆は後半舞台上での踊りが続くが、やはり町の中を練り歩いているシーンだけで構成した方が情緒があってよさそう。「風薫る足立美術館」桐田豊繁氏、SuM5分。1983年 5月と字幕に

あったので12年前の作か。島根県の足立美術館内で隠し撮りしたと、作者の打ち明け話。

「流水曼荼羅」上総修一郎氏、SuT7分15秒。久しぶりのテープ作品。テレコが最初あっていたが回しているうちに調子がよくなった。ヘリをチャーターして撮影するなど本格派。いながらにして流水が楽しめた。8年前作品。

II. ビデオ作品の部

「踊り大好き」越本吉太郎氏、5分。富山県五箇山の祭。盆踊りのようだが盆踊りではないという変わった踊りだ。ナレーションが欲しい作品だ。「幕末の残照・寺田屋」森保信氏、8分。他クラブ撮影会作品だがうまくとめられている。「残照」について話題も。「ワンダフル・イタリア」杉本憲一氏、14分。家族同行の旅行記録だが、ご家族がほとんど出ず、単なる観光映画になったのは惜しい。ナレが欲しいところだ。「秋桜」関剛氏、5分。万博公園にて。奥さんが出る作品は始めてという声あり。「池のほとり」有村博氏、4分。奈良の秋、昨秋は紅葉は美しくなかったが、これはきれいな画面に仕上がっている。ムードある作品だ。「都心の森」合原一夫氏、10分。東京目黒にある教育植物園にて、都心にもこんな空間が…。「サバンナに生きる」小倉宝蔵氏、20分。シマウマの赤ちゃんとそれをとり囲むハゲワシ。緊張感みなぎるラストシーンは感動的だ。氏のサバンナ諸作品の中では一番良くできた作品かもしれない。今秋のフェスティバル出品候補作品第1号。
☆撮影会：5月第4土、日(27.28日) 渥美半島田原町の凧揚げ行事を予定。詳細は別記。

5月例会のお知らせ

☆5月例会は第3木曜18日18時20分「ホテルアウィーナ大阪」にて。新緑のいい気候です。楽しい月1回の例会にぜひお出かけ下さい。作品お待ちしております。

☆話題も“サリン”がトップ

例会前の会員同志の楽しい語らいは毎回、ビデオの話が主役だったが、今回ばかりはオウム真理教とサリンの話題で一杯。すっかり主役の座を奪われた形。早く全面解決してほしいものだ。

☆4月例会レポート

桜の季節も過ぎてしのぎ易い気候で会員諸氏の集まりが期待されたが、出席も11名止まり、作品も8ミリの旧作2本、ビデオの新作2本でやや淋しい例会となった。しかし、時間のゆとりがある分、十分な意見の交換や新しいビデオの潮流DVDの話題などで内容的には充実した例会となった。

8ミリは旧作とはいえ、盛んな頃は皆、力を入れ、作品に対する取組の意気込みが今よりずっとあったのだあ、と作品鑑賞の印象である。ひとつは伝統あるOMC公開映写会で少しでも質の高い作品を見せようとの思い入れがあったと思う。ビデオ化した今日、どうもその辺が軽くなったのでは、との反省が出てくるのだが、皆さんどう思います？

今月の出席者；有村、岩井、小倉、金子、

上総、合原、越本、関、花岡、増田、森の各氏（以上11名）

上映作品；I. 8ミリフィルム作品の部

「津軽」増田栄一氏、SuT 15分。S53年作。太宰治の足跡を縦糸に、津軽の風物・祭等を織りまぜて構成した力作。3回ほど通ってまとめられたとか。それにしても浜田さんの声の若さに歳月を感じる。「運河」上総修一郎氏、SuT 20分。氏の8ミリ最後の作品とか。中国で昔大運河を掘り、交通動脈を造り上げたというスケールの大きな話に取り組みまれた意気込みに脱帽。

II. ビデオ作品の部

「雪の中で」越本吉太郎氏、2分55秒。越本さんにしては超短編だが、聞けば3分以内のアクセス梅田阪神“冬の思い出”ビデオコンテスト銀賞入賞作品とか。奥さんの詩の朗読が活かされ、よくできた作品。ご入賞に拍手。「桜咲く大坂城」有村博氏、4分10秒。昨年の大坂城の桜とか。天候に恵まれ桜の花が実にきれいに撮られている。今年は何となく桜の季節が終わってしまったが、やはり桜の撮影は青空バックがよい。散るカットも動きを添えてよかった。

以上で作品上映は終了、時間が30分ばかり余ったので、司会の有村氏より話題のDVDにつき情報提供された。ビデオもいよいよデジタル化の波が来たが、業務用は今秋発売、民生用は来春以後だろうと。もっともカメラだけデジタル化しても周辺機器が揃はないと一貫性がないので当分は無理とも…。

☆一泊撮影会 5月21～22日、田原岬まつり撮影会参加希望者は早めにどうぞ（既報）。

OMC News

H7.6

発行 OMC事務局 小倉宝蔵

〒531 大阪市北区長柄東2-1. 21-204

1995.6

No. 354

Tel (06)357-7281

6月例会のお知らせ

☆6月例会は第3木曜15日18時20分「ホテルアウィーナ大阪」にて。月1回の例会です。楽しいひとときを過ごしましょう。作品のほうもよろしく。

☆オームの話題も一段落

例会でも話題のつきなかつたオーム・サリン事件もようやく下火となり、落ちつきを取り戻したかに見えるがまだ今ひとつつきりとはいかないようだ。映像の趣味をやっていると世の中騒然の中では、ゆっくり楽しんでもいられない気分。やっぱり平穩がいい…。

6月例会の頃は梅雨時だろうと思う。暗さに強いビデオの特色を活かし、雨のある風情もまた、映像の被写体として十分狙えるのではないか。そういう作品も期待したい。

★5月例会レポート

このところ雨続きだったが珍しく例会日の18日は好天気恵まれた。すがすがしい新緑の頃でメンバーの集まりも良いのでは、と期待したが定刻には9名に過ぎず、10分待ってようやく開会宣言。その後3名増えて例会としてはまずまずの平均的な集まりとなった。今月の出席者；有村、岩井、小倉、岡本、越本、桐田、合原、関、花岡、杉本、増田、森の各氏（以上12名）

上映；1. 8ミリフィルム部

「花の尾瀬」増田栄一氏、Su. M12分。最初テープ同調で上映したが、どういうわけかス

ピードが合わず途中からマグネに切り替えたが、音合わせの心配をしない分マグネは安心しておられる。氏が21年前に撮影した作品だがそれほど色の褪せも感じられなかった。ビデオで21年後となると画質はどうなっているだろうかと話題になったが、保存性についてはやはりフィルムに一長ありそう。

II. ビデオ作品の部

「桜の季節」森保信氏、7分。自宅近くの公園にて撮られたが、桜のつぼみから散るまで桜のオンパレード、散るカットはよかった。人物が1カットだけ出るが、むしろ出ない方がよいのではと意見あり。

「春節祭」越本吉太郎氏、9分。震災前年の華やかな春節祭の記録。これだけでは作品化は難しいが、震災後の町の様子などを織りまぜては、という声も。もっとも震災場面の扱いが難しいという作者の声も判るが…。

「みちのく冬の旅」杉本憲一氏、8分30秒。昨冬ツアー参加で撮られた2泊3日の旅の記録。ご家族がほとんど出なかったが、ツアーものは作品のねらいをはっきりさせないと、ただ撮ってきましたという映像になってしまう。ご家族とナレーションの欲しい作品だ。

「春の声」有村博氏、4分10秒。ヨハンシュトラウスの名曲でまとめられた花、花、花の美しい映像。曲はリズム感があるが、画面にそのリズム感がついていってない、との意見も出された。なかなか難しい課題ではある。

「サバンナ」小倉宝蔵氏、34分。7時間分撮影された中からよりすぐった映像だけに、サバンナの集大成として、完成度の高い作品に

仕上がっている。動物、鳥、花の名前をスーパーインポーズで出されているが、それらを調べるだけでも大変な作業だったろうとは司会の言葉。34分という長さを感じさせない作品であった。

以上で例会作品上映は終わったが、時間があれば、東京の映像作家、早川潔氏のビデオを鑑賞する筈であったが、丁度時間一杯となり残念ながらまたの機会にとなって閉会。三々五々二次会場へと席を移した。

★10月20日の公開映写会へ向けにご準備を

恒例のOMC、関西シネクラブ合同映写会はかねてより発表されているように10月20日（金）朝日生命ホールにて行われます。質の高かさでは定評の高かったOMCの伝統を守るためにも、腰を据えてじっくり取り組んで制作された作品を期待したいものです。まだ間に合いますので今から取組をお願いします。

★OMC田原凧まつり一泊撮影会始末記

このところ週末になるときまって雨。「五月晴れ」というように、本来なら天候の一番安定している時期のはずだが、これも異常気象のせいかもしれない。ところがOMCの撮影会を設定した週末27日（土）28日（日）は5月になって初めての晴天。やっぱり日頃から精進に励んでいる人ばかりが行動を起こすと天気の様もほおっては置かないらしい。うってかわって、まことに爽やかな絶好の撮影会日和になった。

午前8時、会長以下総勢8名。難波から近鉄アーバンライナーのエグゼグティブシートでまず名古屋へ。次に名鉄特急、これもデラックス指定席に乗って一路豊橋を目指す。再び豊鉄に乗り換えて12時前に目的地の田原

到着。まずレストランで腹ごしらえをしてから今日の撮影地“はなのき広場”へ。すでにぶんぶんとうなりを立てながら沢山の凧が上がっていた。全国その地方によって凧の形も大きさも様々だ。田原の競技用凧の作りはたいへんシンプル。大きさも180×80cm位の四角だが、なんと横長。こんな凧は始めてみた。

27日のメインは凧上げの妙技披露。50メートルほどの糸を伸ばした凧を急降下。地上3メートル付近から横に走らせ、ロープにくくりつけた風船を割る競技。大の大人が真剣な面持ち。一本の糸で自在に凧を操るその妙技に、しばし撮影を忘れ見とれていた。

28日は午前10時頃から、会場を広い田んぼに移し、お目当ての喧嘩凧。赤組と青組それぞれ20ほどのチームが糸を絡ませ、相手組の凧を切り落としたり勝ちというゲーム。切れたり不要になった電球のガラスを細かく砕き、糊で塗りつけた糸を使うというもの。

相手に有利に絡ませようと懸命に糸を操る男たち。彼らの表情を撮影するのはそんなに難しいことではない。しかし、200メートルも空の上の凧を撮るのはたいへん。ロングではどの凧がどうなっているのかさっぱり分からない。望遠にするとすぐにファインダーから消える。ましてや、糸が切れる瞬間を撮るなんていうのは至難の技。皆さん空ばかり写していたのではないかな。

正午前、手に負えず全員諦めてレストランで昼食。そのまま帰路についた。

7月例会で撮影会の作品を互選します。是非それまでに完成させて下さい。さて、何本あつまるかな？。（この項、関記）

7月例会のお知らせ

☆7月例会は第3木曜20日18時20分「ホテルアウィーナ大阪」にて。暑くなりりましたが、会場は涼気が満ちています。月1回の楽しい例会にどうぞお出かけ下さい。作品の方もよろしく。

★使いこなしてないAV機器

先日ある人からビデオでコマ撮りやった作品を見せて貰ったが、特殊なええ機材持ってはんなあとと言ったら、何言うてんナーあんたが持ってるソニーVX-1で撮ったんですネ、という答えにびっくり。手持ちのカメラであんな特殊技術ができるのか、と今までの不勉強に恐れ入った次第。そう言えば、ビデオデッキにしてもあれこれボタンがぎょうさんついとるが、ほとんど使わんものばかり…。メーカーさんもユーザーが喜びそうなものをあれこれつけてサービスしてはるが、これがゴチャゴチャと扱い難くしているのも事実。とても使いこなしているとは言えないのだ。単純明快・確実な操作が望ましいが、「差」をつけようと思ったらやはり人一倍苦労して覚えなさい、ということか…。

★6月例会レポート

梅雨どきの例会日、そのせいか定刻になっても8名どまり、やはり雨だと例会に出るのがおっくうになるのだろうか。それでも開会后3名ほど増えてどうにか10台の大台？を突破してやれやれといったところ。ところで、

今月はとうとう8ミリフィルム作品は出ず仕舞い。月1回は映写機を回した方がええのになあーと8ミリ派没落の現実を前に嘆きの一幕も。 **今月の出席者** 有村、小倉、上総、桐田、合原、越本、花岡、増田、森、江村、岩井の各氏 (11名)

上映: ビデオ作品

「自然の中では老いも若きも皆友達」越本吉太郎氏、10分。6年ほど前の作品で大阪ビデオコンテスト入賞作品。若者向けのテンポのいい軽快な曲に合わせた楽しい作品。奥さんの適切なナレーションがもり立てている。

「八重山のひびき」合原一夫氏、8分45秒。ビデオデッキの調子が悪くなり、画面がきれいに出来ないのが残念。もう一度修理に出して見ようか、という話も。天気が悪かったので沖縄の海の青さが無いのも残念。現地の人達の踊り、歌を主体に由布島や竹富島の牛車がのんびり歩く…。「昔の民家」有村博氏、7分40秒。ぶらり散策のつもりで三脚も持たずカメラだけ持って撮ってきた、という割には、しっかりと撮られている。大阪近郊にもこんな被写体があるのか、とあらためて見直したくなる服部緑地公園民俗村的一幕だった。「春がきた」森保信氏、2分。歌に合わせて画づくりをされた。「鳥」のところでは以前拝見したときは鳥の図鑑であったが、今度は万博公園日本庭園へ行ってパッチリ本物を撮られた。その執念で作品もぐっと良くなった。☆田原町鳳合戦撮影会作品の公開審査を7月例会で行います。参加者は是非出品の程、お願いします。なお一般作品もお持ちください。

OMC News

H7.8

発行 OMC事務局小倉宝蔵

〒531 大阪市北区長柄東2-1-21-204

Tel (06)357-7281

1995.8 No.356

1995.8 No.356

8月のお知らせ

☆8月例会は第3木曜日17日18時20分「ホテルアウィナ大阪」にて。暑さもまだまだ続いています。例会場は冷房が効いて涼しさ一杯です。お盆休みで旅行や里帰りの方も居られると思いますが、月一回の楽しい例会です。どうぞお出掛け下さい。作品の方もよろしく。

☆残暑お見舞い申し上げます。

今年は雨続きで、早く晴れないかなあーと毎日空を眺めていたのに、梅雨明けと同時になんと暑い日が続くこと…。熱帯夜も続くことあってビデオ編集する気にもなれず、というところだが、夏しか撮れないという映像めがけて熱心にカメラを向けている方もいる筈、今後の例会作品を楽しみにしています。

☆小倉会長と有村世話役がご入院

小倉会長が近畿中央病院へ入院されたが病状経過も良く、まずは一安心。一方、有村さんも近くの病院へ緊急入院され「B型肝炎」という診断が下されたが、こちらも経過が良くもう心配は要らない、とのことで安心しています。お互いに年を重ねてきたので健康第一でいきましょう。

☆7月例会レポート

例会日の7月20日、まだ梅雨明けならず、この分では今年の水不足騒ぎは無いでしょうが、日照不足で農産物不足にならなければよいがと気をもむ（もっとも後で猛暑が続いています）

小倉会長と有村世話役が欠席されているので、なにやら例会場にも沈んだ気配が漂う。早く元気な姿を見せてほしいものです。有村さんに替わって関さんが進行役を引き受けられて例会開始。「8ミリはありますか」の呼びかけで手を挙げられたのは増田さん、テープ同調の旧作1本が8ミリ作品の部を飾りました。2ヶ月ぶりの8ミリ映写機の番番ですが、「テープ同調の扱い方忘れたなあ」と独りごとをいながらも関さん、立派に上映開始。

I. 8ミリフィルム作品の部

「屋久島紀行」増田栄一氏、SuT、18分。

S45年とその後12~3年後に撮られた映像とを混ぜて編集した努力作。少年が島を離れるシーンは感動的でした。

II. ビデオ作品の部

「ぼちぼち行こら」森保信氏、10分。6年前のOMC撮影会作品でOMC例会では初上映。当時はまだフィルム派が多く、ビデオ派は2人しかいなかったと当時の思い出話に花を咲かす。

「行こら」とは行こうという和歌山弁とか。

「因幡路の出会い」越本吉太郎氏、13分。奥さんがレポーターで因幡路をあちこち紹介される、いかにもビデオらしい作品。歌をうたったり、朗読をしたり奥さんの活躍は大変なもの。ビクターコンテスト入賞作品です。

III. 田原町凧まつり撮影会作品公開審査

はたして何人が応募されるのか心配しましたが、欠席の有村さんのを含めて5本の出品を見てまずはほっとしました。上映順はくじ引きで決め、投票は本日の参加者全員2票づ

つを持ち点で公開審査をしました。

①「田原町凧まつり」有村博氏、11分16秒。

凧まつりの由来の解説から始まり、テレビ局の取材状況、初日の凧揚げ風景、風船切りの妙技などの紹介があり、2日目のけんか凧本番の日、と軽快なリズムで情景描写があって、作品として手がたくオーソドックスな手法でまとめられました。

②「田原凧まつり」花岡汪氏、14分。

凧合戦の由来を語るところから始まり、一般見物人が凧をつくる講習会受講風景、けんか凧についてのインタビューなど分かりやすい作品になっています。負けた凧が落下するロングは印象に残りました。チラと駒残りが何カ所かあったのが残念ですが、凧まつりの紹介作品としては一番分かりやすくて良かったと思います。ビデオを始めて初めの本格作品？の花岡さんですが、さすが8ミリで築いた腕は確かなものです。

③「田原町の凧合戦」合原一夫氏、9分30秒

まず、トップとラストを寄席風の語りで人の意表をつく、という作者のねらいが好評でした。まともに凧合戦を取り上げて、もうひとつ迫力に欠け、勝負のつき方が判りにくいし、作品としても面白くないとの判断から落語風な話術でみせるという戦法がまずは成功か。投票結果も最高点に輝きました。

④「田原の凧まつり」岩井二郎氏、5分20秒

まだ編集途中で時間切れを気にしながら、とにかくも持参したという岩井さん。岩井さんのビデオ作品としては初登場で、これをきっかけに大いに製作してほしいものです。凧合戦の途中で、いきなり舞台のパレーダンスになったのでびっくり。どうやらそこまで編集が終わっていて、パレーダンスは以前録画

してあった映像との説明で、皆ナットク。凧まつり作品、完成されて又じっくり見せてほしいものです。画面は安定していて良く撮れていました。

⑤「田原の凧まつり」関剛氏、10分

トップシーンがのぼりに光る逆光で迫力十分。さすがの関作品です。ナレーションは無く要所にスーパーインポーズの文字が入っています。風船切りの妙技を丁寧に描写されていました。けんか凧で糸が切れた瞬間の映像が1カットあり作者の自慢の一つです。映像派作品としては最も良かったように思います。☆審査結果は合原氏が一位、二位に関氏。

5ほんの作品上映後、直ちに開票。結果は次の通りでした。(敬称略)

1位	合原一夫	7票
2位	関剛	5票
3位	花岡汪	3票
4位	有村博	2票
5位	岩井二郎	1票

開票結果発表後、二次会の喫茶店に席を移し、ビデオ談義で楽しく過ごし10時解散。

☆今月の出席者：岩井、上総、桐田、越本、

合原、関、花岡、増田、森、の各氏(9名)

☆6月例会で調子の悪かったデッキに替え、合原氏が持参されたのを使用したが、8月からは新しいのを購入しようと世話人会で話がすすんでいます。以前にカンパした金が7万円余ありますが、Sデッキは10万円を越すかも知れませんが、差額は後でゆっくり相談したいと思っています。よろしく。

◎公開映写会は10月20日。作品出品よろしく

今年は小倉会長が御不例のため、皆で協力し合って開催にこぎつけたいと話し合い中。皆さんのご協力、特に出品をお願いします。

H17.9

1995.9 NO. 357

1995.9

NO. 357

9月例会のお知らせ

☆9月例会は第3木曜21日18時20分「ホテルアウイナ大阪」にて。秋風のたつ良い季節の始まりです。どうぞ月1回の楽しい例会へお出掛け下さい。作品の方もよろしく。

☆小倉、有村両氏の病状近況

小倉会長は近畿中央病院へ約1ヶ月半ほど入院されていましたが、8月中旬ご退院され現在自宅療養されています。残暑厳しい折りですので、家の中で歩行訓練などでリハビリに努めておられます。

一方、有村世話役は2ヶ月近く入院されていましたが、経過も良く、このニュースが届くころは退院されていると思います。

この上はご両名とも、じっくりと養生されて以前のように明るい笑顔で例会場でお会いしたいものです。

☆8月例会レポート

盆休みがまだ続いているので17日の例会日は会員諸氏の出席状況が心配されましたが、まあ、どうにか10名の大会場に達して、ほっとしました。岡本さんが帰省して、今帰って来たばかりだと、白浜みやげ持参で久しぶりに姿を見せられました。

司会の関さんから、会長入院および退院のこと、フェスティバルのことを心配されていたなど報告があり、皆さんの一層のご協力依頼がありました。フェスティバル出品作品は9月10日の幹事会で決定される運びです。

例会作品上映に先立ち、毎回時間の関係で上映できなかった東京の映像作家、早川潔作品を参考上映しました。

1. 参考作品の部

「冬に生きる」早川 潔（東京）14分。

厳冬の北海道で鶴を丹念に撮られています。キタキツネやカラスなどの餌の取り合いなど興味深く、ご高齢を感じさせない、みずみずしい映像への執念が伝わってきました。

II. 8ミリフィルム作品の部

「日本アルプスの四季」益田栄一氏 12分

S57年完成の作品ですが10数年たったフィルムでも色彩が鮮やかで、さすがコダックフィルムだと感じさせてくれました。作品内容もなかなか良く、当時、元気で山登りをされていた益田さんの若さを十分感じました。

III. ビデオ作品の部

「ミラノのドゥオーモ」関 剛氏、10分。

今年6月イタリアの旅行で撮影されたもの。ドゥオーモとはカトリック教で大司教のいる大教会のことらしいのですが、古く大きい教会の繊細な造りが圧巻でした。スーパーインポーズの文字で説明されていますが、字数が多くて、よみづらいのが残念に思います。ナレーションが欲しいところです。

「奈良点描」森保信氏、9分30秒

まだ未完成作品ですが、阿騎野（奈良の大字陀町）の夜明けの色が素晴らしく印象的でした。そのトップシーンの後は、猿沢池、五重の塔、鹿、奈良の浮御堂（最近建立）絵かき、梅の花、春日大社などと続き、ラストは又阿騎野へ戻って夕日で終わりますが、阿騎野の夜明け、落日と、奈良の一般的な画面との落差が大きいため違和感が残りました。この種の作品は全体をどう構成するかがポイントのようです。完成が期待される作品です。

「鬼怒川. 日光. 熟年の旅」合原一夫氏14分

兄夫妻と東京での結婚式出席ついでの旅の記録。“懐かしい所です

なあー”との観客席からの声がありました。作者にとっても20数年ぶりに見る日光で、ホンマに懐かしい旅でした。いろは坂も今は当時と様変わりようです。

「湖辺早春」岡本至弘氏、4分

琵琶湖を中心に近江八幡の川下り、船頭の歌、安曇川のうぐいの上ってくるころ、余呉のエリなど短編の中にもあちこちの映像をまとめておられます。季節感が少ないのでタイトル名を変えたらどうかと司会からアドバイスがありました。同感です。

「田原凧まつり」花岡 汪氏、14分

前会、公開審査会で上映した撮影会作品ですが、録音をし直したので何か助言をと再度持参されました。なかなかキメ細かく作られていて凧まつりの由来や状況がよく理解できる作品です。

「夏まつり」高井田子供会」岡本至弘氏、30分。

30分の長編を早送りを交えて、要所々々を上映しましたが、かなり良いカットがありました。子供達を中心なので「子供たちの夏まつり」とでもして10分位にまとめたらどうかと思いました。これは子供会の記録として子供達や親たちに見せるためにまとめられたもので、コピーの注文が多いとか。一般用と関係者用と同じにすると無理があるので割り切って両者をそれぞれ作品構成するのが、この種の編集のポイントのようです。

☆新しいビデオデッキ購入の件

現在使用中のデッキは中古品を求めたものですが、調子が悪くなり、画質が落ちますので、新品を買うため皆さんからカンパをお願いして既報の通り8万余円が集まりましたがSデッキは10万円以下では買えませんので、一般会計から3万円を捻出してもらおう事を8月例会で提案、賛同を得ましたので、遅くなりましたが9月例会から使えるように購入します。

☆「モスクワの寒さ」上総修一郎氏、寄稿。

1985年ゴルバチョフさんが大統領に就任した年の年末から年始にかけて、芸能フェスティバルを鑑賞のためモスクワに一週間滞在しました。今、思えばソ連邦の社会主義体制の末期でしたが、その時は少しもその様な認識がありませんので、鉄のカーテンの中を覗くように、少し緊張していたことを思い出します。連泊したホテルは赤の広場の東南、モスクワ川に面した23階建て、南北の長さが100

桁もある巨大なロシアホテルでした。食事はいつも南の道路に面した一階のレストランでしたが、ある時、急に北面の一階にある、それまでと違ったレストランに変更されました。話は変わりますが、このホテルは何回にも分けて増築したらしく廊下の構造が複雑で内部を思う通りに行き来できません。そこで外套を着て外を回ることになりましたが、その日は吹雪でした。厚い防寒手袋をして、寒さ凌ぎに軒伝いに北に走りましたが酷く冷たくて、2.30桁も行かぬうちに帽子をかむらなかつた頭が割れる程痛く、とても100桁も行けそうもありません。引き返して毛皮の帽子をかむって、ようやく無事でした。出発前の旅行社の説明会で毛皮の帽子をくれぐれも忘れないようにとの案内があつてその時は大袈裟なと思いましたが、ここで、確かに理解できました。

機会があつて音楽大学のピアノの教授の自宅、マンションを訪問したときの先生の言葉を思い出します。「昨日まで負40度以上のシベリアで演奏旅行をしていましたが、やはりモスクワに帰ると有り難いです。負30度位ですから天国のようです」と。因に両側にカイロを入れた特製のバックでガードをした8ミリカメラは一分以上続けて回らず、撮影禁止の場所も多くて、ついに作品になりませんでした。心残りな残念な事の一つです。もう一つ、モスクワ市内は地域暖房をしていて建物や地下鉄の中は総て20数度あつて、この点は飛び抜けて文化的でした。 終わり

10月例会は休みです

10月20日(金)が合同映写会の日で、例会予定日の次の日に当たりますので今月は休会とします。会員諸氏は合同映写会の動員の方をよろしくお願いします。

なお11月例会は予定通り、11月第3木曜16日です。

☆デジタルビデオの幕開け

ビデオ雑誌は今やデジタルビデオの話題で一杯、前人氣が高かったせいも、発売日の9月10日には早くもソニーのVX1000を入手したという人あり、有村氏もその一人で、9月例会で早速テストテープを持参されて話題を独占された。他クラブで、従来のVX-1とデジタルのVX1000とで同一条件のフルオートで撮影し、2分割画面で比較したものを見せてもらったが、確かに相違がはっきりしていた。赤も青も自然の色で、にじみもなく、明るくシャープなのが印象に残った。これからカメラを買うならデジタルとの答えが出そうだが、今のところVX-1で間に合っているしねえ……。当分様子を見るか。

☆OMC専用の新しいデッキ購入のご報告。

この2カ月ばかり、従来のデッキが故障でノイズが目立ったので、合原世話役が都度自宅から別のデッキを持参していたが、皆さんの資金カンパと会よりの援助金(3万円)で思いきって新しいデッキを購入、9月例会より登場した。機種はビクターのHR-X3ス

ピリット標準価格19.8万円を10.8万円です。

会計報告、収入、カンパ80,000円、会より30,000円、旧デッキ競売売上10,000円(越本さん)計12,000円。支出、旧デッキ修理代

7,210円(且6.10.有村氏)、新デッキ、消費税込み111,240円、送金料309円、送料1,340円、デッキ会場へ運搬のためのタクシー代600円×3回=1,800円、計121,899円。

差引赤字1,899円。この分合原世話役のカンパで、収支ゼロ、以上報告終わり。新デッキは会の財産、大事に使って頂きたいものだ。

それにしても、Sデッキで音声切替(ノーマル再生)スイッチのついている機種は高級機しかついていないことに愕然とした。ノーマル再生のニーズなど殆ど商売にならないほどの少数派なのであろうか。ビデオカメラの売れ行きはいいが、ほとんど編集して音楽など入れた「作品」にする人はいないという裏返しでもあろうか。(合原一夫記)

☆9月例会レポート

台風12号が過ぎたら急に秋風が吹き出したが、映像の秋でもある。10月20日の合同映写会の日には天気もよく観客も大入りの盛会といきたいものだ。

今月より有村氏が以前のようにお元気な姿を見せられ、早速司会に復帰された。ご退院にまずは乾杯!。一方、小倉会長は現在自宅療養中で、この2カ月ばかりOMCニュースのワープロ打ちも上総世話役に代行してもらっていたのを、今月より再びワープロ打ちをお願いできるまでにご回復された。しかし大事をとって例会はお休み中。祈・ご全快。

例会作品上映

I. 8ミリフィルム作品の部

「不思議な水」増田栄一氏、Si. T. 15分。

およそ25年前のシングル8作品。フジ友の会民話撮影会の作品だが、今は懐かしいFTS同調のテープ録音のため、担当の関さん、音合わせに苦労される一幕も。当時はまだFTS方式が主流だったのかも知れない。作品はタレントを使った本格派だけに今見ても面白かった。今ではお金のかかる時代ものとはとても撮影会では無理だろうが、8ミリ全盛時代は参加者も多くフジさんの援助もあって、よくやったものだ。今はムカシ昔…。

II. ビデオ作品の部

「WAY」関 剛さん、テレシネ作品、4分。

古い8ミリフィルムを整理しようとして、自宅でテレシネされたもの。画用紙を壁に張って1メートル位の距離から映写機で写し、その側にビデオカメラを据えて撮影、モニターテレビを見ながらスピードをあげて(約20コマ位)パーが上下しなくなったところで撮影するのだと、コツを披露された。テープ同調作品のため、スピード調節のついたテレコを使用された。どなたかやってみようという方には伝授しますとのこと。往年の名作だけにビデオになっても貨車の動きに迫力があった。あの音合わせは関さんならではである。なお、関作品が、新デッキの使いはじめになった。

「奈良早春」森保信さん、6分40秒。公開映写会用作品。五重塔、雪の奈良公園と鹿、梅のつぼみ、最後はお水とりのたいまつであるが、全体的に画面は森さんらしくきれいだが見えがラストが物足りないとの声が多かった。作者

は、お水とりのたいまつのシーンをもっと増やして修正したいと再挑戦に意欲充分。

「ライトアップ奈良」有村博氏、4分。今度新しく購入された話題のソニーのデジタルカメラメラVX-1000によるテストテープ。夜間撮影で暗い条件の悪いところばかりを撮ってみられたとか。お家で見るとさすがにバッチリ撮れているとのことだが、例会場の新デッキで拝見したかぎりでは、同じ条件下で従来のカメラで撮ったものと比較ができないので、その良さが良く判らず残念だった。今回は、両者をできれば2分割画面で対比したテストテープを拝見したいものだ。

「おじいちゃん・タイの国のお土産」越本吉太郎氏、5分。アベノの近鉄デパートが募集した作品コンテストに入賞されたという作品。

奥さんのナレーションで、お孫さんに気さくに話して聞かせる、といった手法をとりいれられ成功している。親しみの持てるホームビデオである。こういう海外旅行ものは、誰に見せるかによって、そのまとめ方、構成を考えないと、第三者が見て退屈なものになってしまうものだ。なにしろ毎日のようにテレビで海外ものが放映されているので、第三者の観客は目が肥えている？

「白い島」上総修一郎氏、15分。今年の5月エーゲ海に面したあこがれの島を訪れたときの映像。白一色で統一された家並み、ペンキを塗る女、洗濯女、毛糸でセーターを編んでいる女など生活の臭いがただよう。上総氏独特の映像だ。公開映写会用作品。

今月の出席者：有村、上総、岡本、桐田、森、越本、花岡、増田、合原、江村、11名。重ねて公開映写会動員方よろしく。

H7.11

11月例会のお知らせ

10月例会はフェスティバルのため、お休みしましたが、11月例会は予定通り第3木曜16日18時20分「ホテルアウイナ大阪」にて行います。別項の通り、小倉会長が亡くなられたので、会長選出、OMCの今後の運営方法等、重要事項の話し合いが必要となりました。皆さん、万障繰り合わせのうえ、ご出席下さるようお願いいたします。勿論、時間の許す限り一般上映も行います。

小倉会長、安らかにお眠り下さい

さる10月27日(金)小倉会長のご容体が急変し、かかりつけの近畿中央病院へ救急車で運ばれましたが、効なく夜7時半頃永眠されました。丁度1週間前、朝日生命ホールでの関西シネクラブとの合同映写会には、車椅子でしたがご出席いただき、ご自分の「サバンナに生きる」の上映までお元気で会場に姿を見せておられました。今となってはあのお姿が最後となってしまいました。或る意味では30分の労作を発表されたことで、目標を達成され、ほっとされたのではないかと思います。おもえば昭和62年12月24日、川畑健二会長が他界されて以来、ずっと小倉宝蔵氏が会長として会の発展のためにご尽力して下さいました。氏の几帳面なことは有名で、こまめに雑務まで引き受けて下さったことは、本当に頭の下がる思いです。また、神戸など他のクラブとの友好にも力を入れて来られました。

OMCは永い歴史と伝統のあるクラブです。川畑会長、小倉会長など立派な会長さんがリードして下さいました賜物です。後に残された私たちの代に、この会が消滅しないよう、いや、益々発展させていくよう守り育てていく必要があると思います。どうか、会員皆さんの一層のご協力をお願いいたします。

小倉会長、永い間有り難うございました。どうか安らかにお眠り下さい。合掌！

(合原 記)

故小倉宝蔵氏追悼映写会準備会発足について

H7. 11. 発行

我がOMCの会長小倉宝蔵氏が亡くなられてからもう半月を過ぎました。その間、故人がいかに偉大であったかを思い知らされています。何事に於いてもほとんど故人に押し付けて、私たちはそれが当然のように振舞っていました。ご冥福をお祈りするとともに我々は充分反省しなければならないと思います。

先日奥さんにお会いしたとき、「この映像機器を皆さんに使ってもらえたら良いと思うので関さんとよく相談するように」という故人の遺言をお聞きました。本来ならご遺族の方に引継いでいただくのが最も良い方法ですが、なるべく故人の意向に沿いたいとお申し出でしたので、小倉氏の追悼映写会を行なうという前提で引受けをお約束しました。

皆さんの同意を得た上で早速準備を進めたいと思いますのでご協議をお願いします。

- 追悼映写会の期日は来年1月下旬から2月中旬の間に設定したいこと。
- 会場は「なにわ会館」または同等以上の設備を持つ貸しホール。
- 映写会の資金として、基本的に有志のご寄附をお願いします。
- 故人愛用の機材を希望者に売却し、資金の一部に当てる。
- 上映作品の選定が必要であり、その人員を選ぶ。
- プログラムを作製するにあたり、誰に追悼文を書いて戴くかを定める。
- OMCと関西シネクラブの共催、および代表責任者が関で良いか。

提案者 関 剛

小倉宝蔵氏ご愛用の映像機器を競売のための入札票を添附しました。購入ご希望の方は氏名と希望価格を記入のうえ、11月末日までに関 剛方に郵送または手渡し願います。

関 剛 〒532 大阪市淀川区西中島1丁目2-24 TEL 304-0255

問題点の山積する O M C の今後

小倉さんが今まで会場の手配など一切してこられたことに、私たちは何の疑問もなく、当たり前のように甘えて受け入れてきましたが、さて亡くなられてしまうと、いろいろと解決しなければ、ならない点が山積していることに気づきます。思いつくまま並べてみました。皆で考えてみましょう。

- ①会場の件：小倉さんの元の勤務先の関係で会場とのつながりが深く、料金の割引をはじめ、いろいろ便宜をはかって貰っていましたが、今後はその期待は無理かもしれません。現在より値上げになる可能性があります。今でも安くない会費が高くなると、会員が減る心配をしなければなりません。
- ②では会場を替えた場合の問題点：現在、小倉さんの「顔」で8ミリ機材やビデオデッキを預かって貰っていますが、もし会場を替えると、そうした機材を預かってくれる例会場が見つかるかどうか？
- ③8ミリフィルム作品上映を続けるのか断念するのか？：8ミリフィルム作品上映を続ける場合、映写機とテレコが必要です。新しい会場が、万一預からないとしたら、断念しなければなりません。それでもよろしいか？勿論テレシネした作品ならビデオと同じで問題ありませんが。
- ④どうしても8ミリフィルム作品上映をやめたくない方をどうするか。
- ⑤現在の会場で使用しているテレビは古く、発色に不満がありますが、ホテルアウイ大阪は新しいテレビに買い替える予定があるのか？
- ⑥会費（半期1万円）が高すぎる、という件：おそらく日本でも一番高いのではないかと思われる会費は、下げないことには新しい人が入って来ません。したがって会員が減る一方で、増えないという現実をどう考えるか。
- ⑦公開映写会のこと：O M Cが他のクラブと違う点は、或る一定の作品レベルを保って、毎年、朝日生命ホールで発表会を開いていることです。この発表会が、ひとつの制作上の目標となり、励みともなっています。発表会をやめてしまうと一般のクラブと何ら変わらず特色が消えてしまいます。発表会は続けるという前提で進みたいと考えています。

（合原記）

各位様

拜啓。花の盛りも過ぎ、誠にうらかな季節になりましたが、貴方様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たちのOMCと関西シネクラブに対しましては、いつも多大のご厚情とご指導をいただきありがとうございます。

さてご承知のように昨年10月、関西における映像界の重鎮、小倉宝蔵氏が他界されました。早いもので、あれからもう半年になろうとしています。この度、長いあいだ会長としてOMCと関西シネクラブを支えてこられた小倉氏の偉業を偲び、両クラブ主催による追悼映写会を開催する運びとなりました。ここに謹んでご案内申し上げます。

小倉氏は8ミリ映画の衰退に伴う会員の減少、伝統ある8ミリ映画からビデオ転換への決断など、幾多の試練に直面しながらも両会の運営に献身してこられました。いま振り返って見れば、私たち会員は何事も小倉氏に任せて、その善意に甘えて来たように思います。

今回、期せずして追悼映写会の発案がなされたのも、そうした小倉氏の人柄に報いたいとの気運がたかまったからに外なりません。

また小倉氏は、実に多くの大作名作を遺しておられます。私たちは、それらの作品をもう一度公開して、お元気だった頃の氏の業績を思い起こしていただきたく、この企画をいたしました。どうかご家族ご友人にお声をかけていただき、お一人でも多くご来場の上、ご鑑賞を賜わりますようお願い致します。

また、新しく陣容を整えて再出発しましたOMCおよび関西シネクラブに対しましてもこれまでと同様、ご指導ご鞭達いただけますよう、よろしく願い申し上げます。敬具

O M C 代表 合原一夫
関西シネクラブ 代表 羽田昭治

故小倉宝蔵氏の追悼映写会を予定していますが、その資金調達のため故人のAV機器をOMCと関西シネクラブの希望する会員の方々にお買い上げいただきたいと思ひます。

競売は入札方式とします。できるだけ高い値段でお買い求めください。購入希望の方は氏名と希望価格を記入のうえ、12月10日までに関 剛方に郵送または手渡し願ひます。

送り先 〒 532 大阪市淀川区西中島1丁目2-24 関 剛方 TEL 06-304-0255

入札票

購買者 氏名

品名	新品定価	新品市価	中古市価	希望購入価格
1 Hi8 デッキ EV-NS9000	230.000	134.000	119.800	
2 " EV-NS7000	170.000	101.000	94.800	
3 デジタル SEG XV-D1000	320.000		189.800	
4 コントローラー RM-E1000	120.000		73.800	
5 漢字タイトラー XV-J1000	110.000		65.800	
6 AVセレクター SB-V3000	95.000			
7 モニターテレビ KV-14PSI	66.000			
8 "	66.000			
9 CDプレーヤー DENON DCD790				
10 " TEAC PD-470				
11 4Ch DECKE テアックA-3340				
12 2Ch DECKE テアック 22-2				
13 DENON カセットTAPE DECKE				
14 音声セレクター ASS-300				
15 エルモ映写機GS1200				
16 " GPデラックス				
17 エルモパルス同調器 ASS-1				
18 アカイスピーカー2台一組				
19 オプトニカスピーカー1台				
その他三脚5~6台、AM/FMチューナー、レコードプレーヤー、モノラルテープレコーダー 8ミリカメラ数台、エジター、スプライサー等、それに雑品が相当数。				

◇三脚は1台3千円均一です。但し「くじ」による配分としますので品物の大小、古い新しい等の格差があることはご容赦ください。他は1品(組)1千円でお願ひします。

◇1~5は基本アクセサリー、取扱い説明書付きです。3は左記以外にEDIT. I/F(¥8.000)が付きます。6はリモコンと取扱い説明書付きです。7と8はリモコン付です。

◇新品市価および中古品市価はビデオキャパ10月号の広告欄を参考にしました。

◇機器の性能・特徴は改めて説明しません。カタログ等により各自で確認してください。

◇空欄は価格が不明の機器です。各機器とも包装用ダンボール箱はありません。

OMCの新しい発展を目指して

— 新会長に就任ご挨拶 —

合原一夫

この度、小倉会長のご逝去に伴い、後任の新会長として広報担当世話役であった私が選任されました。川畑、小倉両先輩の立派なご指導ご活躍の後だけに、その重責を痛感いたしております。世はあたかもビデオ時代に入り8ミリフィルム作品の影は大変薄くなってきました。また例会でも8ミリフィルム作品上映が機材の点からも大変難しくなってきました。幸い大方の会員諸氏は時代の波を取入れてビデオ化への取組みを軌道にのせておられます。これからのOMCはビデオを中心として映像を楽しんでいく、映像を愛する者の集まりにしたいと考えております。一方秋の公開映像フェスティバルでの発表会を一つの目標として、わざわざ見に来て下さったお客さまに、「来て良かった」「さすがに伝統あるOMCの作品」と云われるように、作品の質の面でも会員相互の勉強の場としてOMCが育って欲しいと念願する次第です。そうは云っても趣味を楽しむ集まりですから、楽しいクラブでなくてはなりません。お互いの交流を深め、親睦と和の気持ちも大切にしていきたいと考えます。OMCの今後ますますの発展を祈念し、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

12月例会のお知らせ

12月例会は第3木曜日21日18時20分よりホテル・アウテナ大阪にて開催。

寒い時期ですが月1回の楽しい例会にどうぞお出かけを。

作品の方もどうぞよろしく(フィルム作品歓迎)。会員募集中。

OMCの運営について、役割分担決まる

会の運営は、皆で協力し合ってこそうまくいくものですが、その中心となるべき世話役とその担当が決まりました。よろしくをお願いいたします。

会長兼渉外

合原一夫

広報担当

合原一夫、前田茂夫

会 計 増田栄一 例会場担当 (申込連絡等) 有村 博

例会運営 (機材、司会他) 関 剛、有村 博、岡本至弘

企 画 上総修一郎、関 剛、岡本至弘

世話役会構成(合同映写会世話役人兼及び会の運営全般について)

合原一夫、上総修一郎、関 剛、有村 博、増田栄一、

前田茂夫、岡本至弘の7名 (以上敬称略)

平成8年2月より例会日と例会場が変わります

長らく例会場として「なにわ会館(ホテル・アウィナ大阪と改称)」を使用してきましたが、今まで故小倉前会長によって安い料金で借りられたのですが、小倉会長亡き今、今後とも安い料金でいつまでも続けられる保障はありません。会費値上げもこれ以上出来ませんので、この機会に公営の安い例会場に移ることになりました。長い間、なにわ会館を借用し愛着と思い出も多いのですが、ビデオ化の波と共に時代の移り変わりを痛感いたします。新会場は天王寺駅に近い、大阪市立阿倍野市民学習センター(後述のとおり)となります。なお例会日も第4土曜の夜と元に戻すことにしました。現在は木曜日の夜になっていますが、ウィークデーは残業等で出席できない方があり、以前のように土曜日夜の方が集まり易いであろうとの結論に達しました。会費も思い切って半額程度にして会員増加を図っていきたいと考えています。この新会場は機材を預かってくれませんので、8ミリフィルムはその都度機材を持込む以外上映出来ないのがまことに残念でなりません。一般的に何処の会場でも、機材を預かってくれるところはないそうです。現会場は故小倉会長との特別の関係があって機材を預かってくれていました。従って今後はそのような便宜を受けられる会場はまず無いものといえます。

8ミリ映画上映については、年に1~2回程度別の会場(例えば増田さん宅など)で、上映会と親睦会を兼ねて開いたらどうか、とも考えています。

☆11月例会レポート

11月は小倉会長ご逝去に伴う新会長ほか世話役選任と前年度会計報告、特別会計(ビデオデッキ購入)報告および財政上の理由からの会場変更の件について討議されたので、作品上映の時間がなくなりました。せっかく作品をご持参された方にはご迷惑をおかけしましたが、12月例会に是非お持ち下さい。

1. OMC会長選任の件 前述のとおり合原氏が選任された
2. 世話役とその役割分担が新会長より委嘱され了承された
3. 会計報告

＜収入＞	前年度繰越金	57,627
	会費	17×20,000= 340,000
	計	397,627円
＜支出＞	会場費	189,427
	備品（デッキ購入補助）	30,000
	映写会補助金	60,000
	会報等広報関係	25,518
	祝電等渉外費	2,404
	次期繰越金	90,278
	計	397,627円

4. 特別会計（デッキ購入関係）
詳細はOMCニュース 10月号 No.358に報告

＜収入＞	一般会計より繰入	30,000
	その他収入	91,899
	計	121,899
＜支出＞	デッキ代金	121,899

5. 例会場現状報告

現在ホテル・アウィナ大阪にて例会を毎月第3木曜日に開催していますが、使用料金等につき有村世話役から次の通り報告があった。

◇現在例会場の部屋代は組合員特価で6,300円、テレビ7,000円、スクリーン1,000円、サービス料10%、消費税3% 計16,000円 を支払っているが、これが一般扱い料金となると、試算の結果毎月27,500円位になるとのこと。なかでもテレビ借用料7,000円にはVTR(Sでない)ので使っていない)代も含まれているが、如何にも高くテレビも古いので画質の点でも難がある。

6. 例会場変更についての討議

◇現在年会費20,000円を出してもらっているが、これ以上値上げすることは会員の減少、ひいては会そのものが存続しなくなる懸念があり、むしろ会費を下げて会員を増やすべしとの方針が出された。

◇8ミリフィルム作品上映を今後も続けるかどうかの討議

現在8ミリ機材（映写機、テレコ）を会場に預かってもらっているが、会場を変えると機材を預かってくれるところが他にない。そこで今後もフィルム作品上映を続けるかどうかという点で討議を重ねたが、妙案がなく断念も止むなしとの大方の声であった。もっとも自分で機材を持込めば上映可能であるが、重たいので毎月持込みも大変であり難しいのではないか。

7. 新例会場について

新会場の件で討議中、増田会計担当より自宅を例会場に提供したいと

の有り難いご提案がなされたが、個人宅ではご家族のご都合（冠婚葬祭や病気等）によっては休会とならざるを得ないこと。またご家族に何かとご迷惑をお掛けすることになるので、折角のご提案であったが断念し、代わって有村世話役から次の公営会場ではどうかと提案され詳細について説明がなされた。

◇大阪市立阿倍野市民学習センター

〒548 大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目10-11-300

☎ 06-634-7951 地下鉄谷町線アベノ駅下車、南側7番出口から

「あべのベルタベル」3Fへ。御堂筋線天王寺駅から南へ5～6分。

当会場は3ヶ月前から予約受付、H8年2月24日第4土曜日を仮予約済み。18時～21時30分まで。24人収容の部屋で3,000円、TVとVTR使用料1,300円、但しVTRはソニーのS-VHS簡易再生方式で、ノーマルとHIFIの切り換えが出来ないため使用できず、OMC所有のSデッキを持込む必要がある。なお、貸ロッカーがあるが少し小さすぎてVTRは入らないとのこと。無論8ミリ映写機は無理とのこと。

8. 会費の件について

現在は半期10,000円の会費であるが、今期は取り敢えず10,000円を納めていただき、会員数が15名を超えれば後期(H8/4～8/9)には会費の徴収なしで運営が出来る見通しとなった。もっとも15名を割れば、その時点で若干徴収の必要が生じるかもしれないが、どうか会員諸氏による新会員のご紹介ご勧誘により、せめて20名程度にしたいものである。乞ご協力。

9. 故小倉前会長の追悼映写会の企画

故人には生前大変お世話になったが、その小倉宝蔵氏を偲ぶ「追悼映写会」が企画されている。来年2月～3月初めの頃、ホテル・アウィーナ大阪が有力視されている。故人ご愛用の機材を希望者に売却し、そのお金を映写会費用の一部に充てる予定がなされているほか、有志のカンパもお願いしたい。いろいろ準備も大変であるが、関世話役を中心にお世話願っている。皆さんのご協力を是非お願いしたい。

10. 新年会、来年も関西シネクラブと合同で、1月21日(日)17時30分よりホテル・アウィーナで開催します。多数の方のご出席をお願いします。

(合原記)